

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公)

討議年月日: 2022年 2月 25日

公表: 2022年 2月 28日

事業所名: アーク合同会社

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	66%	34%	・様々なタイプの子があり、活動内容もそれぞれなので、もう少し広いスペースがあればよい	・現時点では難しい状況
	2	職員の配置数は適切である	66%	34%	・できるだけ多くの子供を見守り、各自のニーズに合わせた指導の為、人数は多い方がよい	・法的配置数は適切に行っているが、より良い療育の為にはその通りだと思う。
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	66%	34%		
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	66%	34%		
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	100%	0%		
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	100%	0%		
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	66%	34%	・わからない	・現時点では第三者委員会は置いていない。
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	66%	34%	・わからない	・勤続年数に合わせて行っている。
適切な支援の提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	100%	0%	・アセスメントが直接関わる指導員も交えて行われ、計画作成時にも関わりがもてるとうい	・日々保護者、関係機関との連携を行い、職員同士共有している。足りないと思う職員はもっと他の職員とのコミュニケーションを自己で考えるべきである。
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	66%	34%		
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	66%	34%	・活動プログラムをきちんと立案し、チームで運営、振り返りが出来ればよいと思う	・チームで行うのは、現状難しい。しかし個々の職員の努力は見られる。
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	100%	0%	・もう少し工夫が必要	・現状、職員同士が協力して行っている。
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	66%	34%	・これからの課題(特に長期休み)	・長期休みは、学校からの宿題で熟すことにいっぱいである。宿題の支援に重きをおいている。
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	100%	0%		
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	66%	34%	・送迎や職員の勤務体制の違いなどあって難しいが、必要	・現在毎日行うようにしている。
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	66%	34%	・役割分担については、開始前に確認している	・現在毎日行うようにしている。
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	100%	0%	・ほかの人が見ても継続した支援が可能な記録だともっとよいと思う	・職員同士共有し、チームワーク良く行っている。
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	100%	0%		
	19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ合わせて支援を行っている	66%	34%	・わからない	・支援員がそれぞれ意見を交換し、より良い療育を心掛けている。



		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	66%	34%	・わからない	・行っています。支援会議には複数で参加することも行っている。
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	100%	0%	・もっと密にすべきだと思う	・随時連絡、相談を行っているが、学校、保育園幼稚園によっては保護者を通さなければならない状況である。
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	66%	34%	・わからない	・指示書もらい、通院時に同伴させてもらう等行っている。
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	100%	0%	・もっと密に連携すべき	・個人情報の観点から難しい。児発からの利用者は充分行っている。他事業所との連携は現状、求めても難しい。
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	66%	34%	・まだ実績がないためわからない	・他事業所から求められることは、今のところ無い。情報は相談員が把握し、提供していると思う。
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	66%	34%	・わからない	・相談員の配慮がなければ、難しい。
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	66%	34%	・わからない	・コロナ禍では難しい。
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	66%	34%		
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	100%	0%	・実際に関わっている指導員との共通理解があればもっと良い	・送迎員が保護者との橋渡しを行っている。共通理解できてないと思われるのは、職員同士のコミュニケーションが足りないと考えべき。
29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	66%	34%	・わからない	・コロナ禍で面談は充分配慮すべき。相談は随時受けている。	
保護者への説明責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	100%	0%		
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	100%	0%		
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	100%	0%	・支援しようとしているが、まだ実績なし	・コロナ禍では難しい。早く以前の様に行いたい。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	100%	0%		
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	66%	34%	・行事等の発信はあるが、会報など、活動内容の発信はなるべく必要か	・定期的にはないが、随時発信している。
	35	個人情報に十分注意している	100%	0%		
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	100%	0%		
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	66%	34%		

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	66%	34%		
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	66%	34%	・年数回大きいものを月一回位簡易なものが必要だと思う	・年2回の避難訓練実施。事業所内での訓練は、遊びの中で取り入れている。
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	100%	0%		
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	66%	34%	・わからない	・身体拘束は行っていない。
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	66%	34%	・わからない	・医師の指示書が必要な程のアレルギーの子供の受け入れは行っていない。
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	66%	34%	・安全の為、必要だと思う	・必要に応じて準備可能。日々職員同士がコミュニケーションを行い、声掛けをしている。